



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文ビル2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

E-mail: yuai@yuaikyoukai.com

http://yuaikyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

### 平成25年度国際交流受入事業

## OJABより二名来日 日本文化に興味津々

### 日本の歴史、時代背景、現在の流行も勉強しての来日 京都・広島・東京 日本の食文化を堪能

日本友愛協会と姉妹団体の関係にあるオーストラリア勤労青年連盟(OJAB)は、毎年それぞれに派遣員を送り、交流を続けている。今年度も実施されたこの国際交流受入事業では、日本文化に多大な興味を寄せる二人が派遣され、一月二十四日(金)から三十一日(金)までの八日間を日本で過ごした。本年度は、アテンドに柏井 優さん、松村衣梨さん、納谷結花さんが協力参加して下さった。松村さん、納谷さんお二人の報告文と共にご紹介しします。

今回OJABの推薦を受け、来日したのは、マルクス・グルーバーさん(三十六歳、学生担当マネージャー)とクラウディア・ケルシンガーさん(三十八歳、直営施設マネージャー)のお二人。日本文化に興味を持ち、来日前に様々な書物を読んで、実際に目にするのを楽しみにしての来日である。特に世界遺産に登録された「日本食」を体験できる事に、大いなる期待を寄せていた。

早朝の空港への出迎えは柏井さんが担当、元氣な笑顔で二人をお迎えした。長旅の疲れも見せず、翌日二人は築地市場を見学。その後京都に向かい、憧れ

の金閣寺の見学を始め多くの神社、仏閣を見学した。広島に移動してからは、納谷さんが合流。お好み焼きに舌鼓をうったり楽しい旅となった。広島では、鳩山一郎先生の遺志を受け、原爆資料館を見学、平和への取組みの講義を受け、荒本徹哉副市長と面談した。広島市からは毎年、市庁



歓迎食事で、鳩山由紀夫理事長にシユスラー会長からの親書を是非ウィーンにとの誘いが



鳩山会館にて。右端は松村衣梨さん。左端は通訳のミヒヤエラさん、二人目納谷結花さん



長田支配人の説明を受け、熱心に鳩山会館の展示を見学。通訳のミヒヤエラさんも大感激



憧れの金閣寺を訪問できて、大満足の二人。早朝の爽やかな空気が、金閣寺の輝きを際だてた



日本文化に多大な興味を持つ二人の、たつての希望で和服の着用体験。大喜び大はしゃぎで記念撮影



広島平和文化センター小溝泰義理事長(写真右端)より、平和への取り組みについて講義を受ける



広島平和文化センター小溝理事長にOJABメンバーの象徴であるピンバッジをプレゼント



広島にて。資料館を見学、平和への取り組みの講義の後、真摯な面持ちで長いこと祈りを捧げていた



広島市荒本副市長を訪問。和やかな雰囲気でお話した。広島市からは毎年多大なご協力を得ている



伏見稲荷で流暢な英語で声を掛けられた。平和祈願の折鶴を外国の方にとのこと。一つの国際交流

マルクスとクラウディアとの二日間 松村衣梨 毎年「友愛ドイツ歌曲コンクール」を実行委員としてお手伝いしているご縁で、日本友愛協会が長年国際交流を続けているオーストラリア勤労青年連盟(OJAB) 来日の際のアテンドという今回のお話を頂き、マルクスとクラウディアの二人と、東京での二日間を一緒に過ごした。

一日目は鳩山会館を訪れた。歴史ある美しい洋館の記念室に展示された貴重な品々を二人は熱心に見学し、また説明に耳を傾けた。夜には、ライトアップした東京タワーのすぐ近くで

「ら漬」がとても気に入りました。これもお土産にしたいという。日本人でも好みが変わる漬物を、本当に美味しく食べていて、意外に感じた。彼女はオーストラリアでは日本食が食べられないことを、残念がっていた。二人とも、京都滞在中から豆腐や刺身、日本酒に親しんでいて、マルクスは特に箸を上手に使いこなしている。

### 友愛時評

▼東日本大震災から三年が経った。思うに任せない復興への苦闘が続く被災地がある一方で、記憶の風化も嘆かれています。▼もともと、忘却は人間に与えられた能力でもある。恐怖や悲しみに苛まれ続けたまま生きていくことはできない。筆者自身も、震度2程度の揺れでも反射的に身構えていた身体の反応が鈍くなったことに気づき、平時への復帰を実感したのは最近のことである。震災時の恐怖の感覚は、ようやく記憶の底から努力して呼び覚ますものとなってきた。▼こうした忘却や記憶の整理は、人間個人の防衛機制としては不可欠だろうが、人間集団や社会が同じことを行おうとする場合には要警戒である。原発再稼働への動きが本格化し「原子力ムラ」の復権すら感得される状況は、二年前であれば想像すらできなかったのではないかと。福島第一原発事故のたまたまた災厄と恐怖を「忘却」せずに原子力政策の議論を進めてほしいと思う。▼忘却と記憶の問題は、外交の世界でも実に厄介である。意図的にせよ無意識にせよ「記憶の作りかえ」は古今東西の政治・外交に遍く見られ、学問的にも「記憶の政治学」は句のテーマである。▼従軍慰安婦問題で強硬な態度を取り続ける朴槿恵政権に引き摺られるかのよう、東アジア諸国は「記憶の外交ゲーム」に血道を上げていく。確かに「日帝からの解放」が建国の理念となった中国や南北朝鮮と、我が国の歴史観に相容れないものが存在することは否めない。だとしても、安易な忘却や記憶の作りかえに双方が自制と警戒を保つ姿勢無くしては問題は永久に解決しない。(ヒゲ)



時間の関係で、鳥居の近くまで潮が引いていた。是非歩いて近くまで行きたいと、納谷さんと冒険



日本文化は何でも試したい二人。広島市内鯉城にて、戦国時代の殿と奥方に変身。良くお似合いです



最後の晩は、東京で江戸前寿司を体験。生の魚は美味しいとの結論を得た。下町情緒も味わった



正座は流石に苦手。しかし茶道ではこのようにするのでしよう。と、正座して作法通り抹茶に挑戦した



理事長お薦めの東京タワーの夜景を後ろに、記念撮影。歓迎会の料理にも大感激の連発だった



竜安寺の枯山水を「哲学的だ!」と。いつまでも二人で、何をどう理解するかと話し合っていた



二月六日(木)午後五時から、東京紀尾井町のホテルニューオータニに於いて、鳩山安子名誉会長の一年祭が開催された。ご家族、ご親戚を始め、新しい方々が参列し故人を偲んだ。鳩山家が氏子である今宮神社(今宮五社)が神道の礼に



「安子さんとは永い永い語るに尽きぬ思い出が」と懐かしそうに語る石橋義夫共立女子学園理事長



縁の国会議員の方々の姿も。小川勝也参議院議員、吉川貴盛衆議院議員、岩屋毅衆議院議員(左から)



鳩山安子名誉会長と縁の深い方々は、式の後も遺影に語りかけ、それぞれの尽きぬ思いを伝えていた



日本友愛協会からも川手正一郎常務理事、鶴巻克雄特別顧問を始め関係者が参列した

ツキからの光景や、ガラス床から真下を見下ろした眺めを楽しんだ。  
寿司屋での夕食ではカウンター席に座り、二人は職人が寿司を握る姿を興味深そうに見てカメラに収めていた。寿司は江戸前の作法(?)に則って、箸ではなく手で頂いた。  
二日間という短い期間であったが、彼らが積極的に日本の文化に触れ、楽しむ姿が印象に残った。  
自身の語学力不足のため言葉の壁が不安だったが、彼らの笑顔や優しさに助けられながら共に楽しみ、ほんの一部だが日本を紹介するという貴重な体験をさせて頂いた。  
また、普段当たり前のよう

「日本友愛協会国際交流事業」に参加させていただいて  
私は、数年前より実行委員として「友愛ドイツ歌曲コンクール」のお手伝いをさせて頂いておりました。光栄なことに、この度OJAB(オーストリア勤労青年連盟)の方々と交

流事業に声をかけていただきました。  
オーストリアといえば、モーツァルトが生没した国でもあり、音楽が大好きな私にとっては憧れの場所の一つです。  
全八日間の日程のうち、私は一日目の東京と、京都、広島、東京の五日間を一緒にさせて頂いていただきました。

て、日本人の自分には当たり前になりすぎて珍しくなくなってしまうている、例えば「着物(和服)」や「扇子」「箸」や「独楽(コマ)」などの良さを改めて新鮮に感じた、という場面がよくありました。マルクストクラウディアがうれしそうに着物を着ている姿をみたときは、オーストリアの人々にとって、日本は魅

力的な国に映っているのかな、と少し誇らしい気持ちにもなりました。  
浅草の仲見世通りや広島、の厳島神社、広島城では、日本の伝統的な文化や建築物に目を輝かせておられましたし、「SUSHI(寿司)」「TENDON(天丼)」や「お好み焼き」などの食文化にも大変興味を持って

くださり、美味しいを連発しながら食べていました。喜んでくれたこと、日本の食をほめてくださったこと、理由は言葉では表現できませんが、とても嬉しかったです。  
このような、お二人の異文化を理解しよう、溶け込もうという気持ちが、緊張していた私の心を解き放つ

てくれたのだと今改めて感じています。  
交流とは、何よりそういった姿勢が大切で、言葉の壁さえも超えることが出来る、それに気づかされた五日間は、私にとってもかけがえのない時間でした。この素晴らしい出会い、出来事に感謝しております。

縁の国会議員の方々の姿も。小川勝也参議院議員、吉川貴盛衆議院議員、岩屋毅衆議院議員(左から)

# 鳩山安子名誉会長一年祭

## 縁の方々が集い、厳かに和やかに

### 平成二十六年二月六日ホテルニューオータニにて

二月六日(木)午後五時から、東京紀尾井町のホテルニューオータニに於いて、鳩山安子名誉会長の一年祭が開催された。ご家族、ご親戚を始め、新しい方々が参列し故人を偲んだ。鳩山家が氏子である今宮神社(今宮五社)が神道の礼に

列され、故人を偲んだ。皆口々にこの一年がいかに早く過ぎたかを語り、鳩山安子名誉会長の一年祭(仏教での一周忌にあたる)には、縁の方々が参列され、故人を偲んだ。鳩山家が氏子である今宮神社(今宮五社)が神道の礼に

早口々にこの一年がいかに早く過ぎたかを語り、鳩山安子名誉会長の一年祭(仏教での一周忌にあたる)には、縁の方々が参列され、故人を偲んだ。鳩山家が氏子である今宮神社(今宮五社)が神道の礼に

一年祭は、東京音羽の今宮神社が執り行い、神道の礼に早口々にこの一年がいかに早く過ぎたかを語り、鳩山安子名誉会長の一年祭(仏教での一周忌にあたる)には、縁の方々が参列され、故人を偲んだ。鳩山家が氏子である今宮神社(今宮五社)が神道の礼に

ご兄弟揃って参列者に挨拶。鳩山由紀夫理事長、鳩山邦夫副理事長、井上和子評議員長(写真右より)

東京谷中にある鳩山家の墓地に、生花が供えられ、関係者が墓参りに訪れていた

式の後、会場を移し開かれた直会の席で、鳩山由紀夫理事長、鳩山邦夫副理事長、井上和子評議員長が挨拶にたち、御礼のことばと

「安子さんとは永い永い語るに尽きぬ思い出が」と懐かしそうに語る石橋義夫共立女子学園理事長

鳩山安子名誉会長と縁の深い方々は、式の後も遺影に語りかけ、それぞれの尽きぬ思いを伝えていた

日本友愛協会からも川手正一郎常務理事、鶴巻克雄特別顧問を始め関係者が参列した

縁の国会議員の方々の姿も。小川勝也参議院議員、吉川貴盛衆議院議員、岩屋毅衆議院議員(左から)

# 友愛婦人会だより

## 鳩山安子会長を偲ぶ会開催

### 半世紀の歴史にくぎり 友愛婦人会卒業式も併開 新しき飛躍を求めて卒業

三月三日(月)東京目白の椿山荘に於いて友愛婦人会は「鳩山安子会長を偲ぶ会」を開催した。桃の節句を選んで開かれたこの会は、同時に「友愛婦人会卒業式」と位置づけられ、友愛婦人会の会員全員がこの日を以て卒業となった。

開場には鳩山安子会長の遺影が飾られた祭壇が設けられ、全員で黙祷を捧げた。

鳩山邦夫衆議院議員・日本友愛協会副理事長を始め、煙山力元文京区長も出席、友愛婦人会の果たした効を讃えた。友愛婦人会大川米子幹事長よりお寄せいただいたご挨拶を掲載し、ご報告とさせていただきます。

#### ご挨拶

友愛婦人会

幹事長 大川米子

くことにいたしました。

思えば昨年二月十一日、友愛婦人会会長鳩山安子様

がご逝去されてこの方、友愛婦人会は本当に哀しく、

友愛という言葉をかみしめてひととせを過ごしました。

思い起こせば、会長様のお身体の不調もあって、お目にかかる機会は少なくなりました。古典の習字を難しとおっしゃりながら墨を磨ってのお稽古風景、友禪をご一緒に染めながらお話ししたこと、恒例の新年会では、いつも控えめに婦人の方を立ててくださり、にこやかな笑顔で過ごされていたことなど、その時、その時を思い起こし、「会長様ならきつとこうおっしゃるかしら」とか、「会長様ならこういうご判断をなされるだろう」と、全ての行事を行うたび、ご相談申し上げ、いつも一緒に過ごさせていただいている気持ちでございました。

頼みとする、心の支えであつた安子会長様が旅立たれ、悲しみと同時に、大きな柱をなくしてしまいました。何度も何度も役員会、幹事会を開き、お力添えをいただいたきた多くの方々にもご相談申し上げ、会員の方々のお声も伺い、会長様が旅立たれたあとの一年を喪に服しながら今後のことを話し合いました。

国の方針として、男女共同参画社会を目指す文京区にとって、長い歴史をもつ「友愛婦人会」は、一つの象徴としても認められておりました。

三月三日桃の節句(女の節句)に、ご縁の深い椿山荘において、「鳩山安子会長一年祭」を開催いたしました。

友愛婦人会を今日まで牽引してきた役員が揃って挨拶。大川米子、五島珠江、小峰秀子、諏訪あさ、白石敏子、水口美紀子、榎弘美、渡辺悦子、青山高恵、島海益恵、秋田さと子写真右から・敬称略



会場には優しい色合いの祭壇が祀られ、皆で選んだという安子会長の遺影を花が囲んでいる



そして鳩山薫先生、鳩山安子会長と代々の会長の教えを守り活動をしているだろうか、ご心配をおかけしていないだろうか、いず

させていただきました。友愛の発祥の地である「文の京(ふみのみやこ)」にその名を消さずに来られましたのも会員の皆さまは勿論のこと、薫先生、安子会長、西木幹事長、煙山静枝さん、種田英子副会長、当日ご来賓の加藤順子様など多くの女性達のご指導あつての賜物と思えます。

それでは、幹事会はその都度、様々な選択肢のなか「本来の友愛婦人会のあるべき姿」を見つめ議論が続けられました。

そして最終的にまとめた答えは「新しき飛躍を求めた卒業式」でした。

卒業式の日取りは、既にかまっていた鳩山安子会長一年祭をあて、女の節句ではないかということになりました。桃の節句にあやかり、たおやかさをもつ婦人会の会員全員に相応しい日だと、全員一致でまとまりました。

しかし私ども婦人会は、安子会長様の後、ここで一つの区切りとして、また新しく出直すことも考えなく

終わりにするのはあまりに惜しいと時に言葉を詰まらせ、万感の思いで挨拶。鳩山邦夫衆議院議員



文京区にあって本当に頼もしい活動をされてこられました。縁の深い煙山力元文京区長も挨拶



京区長、加藤順子様、多くのご来賓がご出席くださいました。鳩山由紀夫先生、井上和子様からは、心温まるメッセージをいただきました。

鳩山邦夫先生のご挨拶があり、私たちの邦夫先生の熱き時代の、政治の志を抱いて選挙に立たれた時の、紅顔の美青年の面影が感じられました。

邦夫先生の久しぶりの純粋なお話ぶりに、友愛婦人会会員の胸に熱いものがこみあげてきて全員が一つの想いで、婦人会を思い起こしておりました。ちょうど友愛婦人会が生まれた頃の、「社会に向けて勉強しながら友愛を実践していく」と熱き志が集まった、

これからも日本友愛協会とのご縁は続きます、いつでもいらしてくださいと。川手正一郎常務理事



数々の選挙で、皆様には本当に力強いご協力をいただきましたと挨拶。武田記念男理事



あの頃のような、豊かで穏やかな、それでいて熱気に溢れた、あの婦人会の雰囲気、そこにはありません。

私たちが婦人も皆それぞれ卒業を機に、一人ひとりが薫先生、安子会長様の教えを忘れずに精進していくことこそが、日本友愛協会にご協力出来ることだと考えております。

文京区で生まれ、文京区で育った友愛婦人会です。国、文京区の目指して

思い出は尽きません。本日は来賓としてお声を掛けていただき感謝しますと挨拶。加藤順子さん



永い歴史を婦人会と共に過ごした多くの想いを込めて献杯のご挨拶。諏訪あさ友愛婦人会副会長





友愛婦人会主催「友禅染め作品展」にて井上和子さんのメッセージにも登場した展示会での場面。鳩山安子会長は、晩年友禅染に興味を持たれ、熱心に作品を制作していた。壁に掛けられた作品の中央は、鳩山安子会長の作品(ハンカチ二点を出品)2003年(平成15年)2月

いる男女共同参画社会の実践も、友愛婦人会に課されたテーマの一つです。日本友愛協会にも、こうして培われた大きな心の、女性参加の活動の場を沢山作っていただけるよう、切にお願い申し上げます。

一人ひとりが、大きな役割を終えて迎えた卒業式、鳩山安子様のお写真は、七十七歳の喜寿の祝いの折、写されたものの中から、皆で選んだものでございませう。いつも美しくたおやかにいらした安子会長様のように、私たちもいつまでも美しく、力強く、微笑みをたたえられたご遺影に誓いました。

安子会長を偲んで

本富士支部 支部長

榎 弘美

昨年二月十一日に、友愛婦人会会長、鳩山安子様がご逝去され、早いものでもう一年が過ぎました。本富士支部ばかりという事では

に、たくさんのご厚情、お力添えをくださった日本友愛協会の皆様方に、この紙面をお借りして、心よりの御礼を申し上げます。まことにありがとうございます。……

淋しい一年でございました。しかし、これからの私たちの人生は、たくさんのお出でとともに元気に過ごして行こうと思っております。……

一年祭

駒込支部 支部長

秋田さと子

二月六日、安子会長の一年祭に参列させていただきました。改めて友愛婦人会が、永い年月の間、会長の温かいお気持ちのなかで、いかに楽しくさまざまな行事を行ってくださったのかと、しみじみと感じられたひとりでございました。



鳩山安子会長一年祭・友愛婦人会の卒業式に参加した来賓の方々



込み上げる思いと思い出を胸に、最後のご挨拶。大川米子幹事長



鳩山由紀夫先生のメッセージを読み上げる秋田さと子駒込支部長



井上和子さんのメッセージを読み上げる鈴木和子本富士支部幹事



半世紀に亘る歴史の中でと思いを語る榎弘美本富士支部長

会場の中央祭壇には、御葬儀の時とは違った、またこれも美しいモノクロのお写真が安置され、式が進んで私どもが玉ぐしを供えさせていたたくまでの間に、婦人会での数々の出来事が思い起こされて、胸の熱くなるのをおぼえました。……



軽井沢友愛山荘は、四月一日より、平成二十六年年度の営業を開始いたします。昨年完成した「友愛ホール」も、次年度は本格的に稼働を始め、友愛ホールのみの貸し出しも受付ます。……

軽井沢友愛山荘受付開始
新しいパンフレットできました!
友愛ホール・テニスコート 設備も充実
ユニバーサルデザイン導入 使いやすく

時事川柳
服部迪夫 作
「時事川柳研究会」会長
世界遺産登録
和食から多くを学ぶ食文化
マンデラ死去
弔問の外交にみる温かさ
本音で生きた芸能界
たかじんの凄さを映すテレビ局
ロレンスの死
アラビアに雪を降らせる憎い人
上村愛子引退
引退に花を添えますコブの数
スノーボーイ・銅表彰台
潮流を変えた二人の中高生
お手上げ
大雪にまたかたまさか交錯

「春の来ない冬はない」の言葉の通り、都内の川津桜は二月末から満開。あの大雪の日を思い出す。過ぎたまえば「なんてことはない」そんな錯覚に陥る人間の性。……